



20回の節目

## オランダ派遣研修について紹介します。

渥美農業高等学校

私たち、渥美農業高校の生徒と教員は、毎年オランダ研修を実施しています。今年度は20回目の節目の派遣で、生徒10名、教員2名が参加しました。

今回は、オランダ研修についてご紹介します。

### 日本とオランダの農業の違い

オランダ研修では日本とオランダの農業の違いを、実際にオランダのいろいろな作物を栽培している農家や企業を訪れ、学びました。両国の違いは、オランダでは農業を工業的に捉えている点です。例えば日本では手作業で行う花の収穫も、多くの作業が機械化されており、収穫された花を作業所まで運ぶのもベルトコンベヤーが行っていました。そのため、ほ場<sup>うね</sup>にあまり人が入らないので、畝<sup>うね</sup>などを作る必要もなく一面に作付けしていました。

このような違いを研修によって見つけて帰ってくることで、日本で当たり前に行っている農業との違いを知ることができました。



●都市型農園を視察し、現地農業を学びました

### 初めての海外での生活(ホームステイ)

この派遣研修で初めて海外を訪れる生徒も多く、最初は不安を感じる生徒もいました。しかし、ホームステイ先の家族の温かな対応やコミュニケーションを通して充実した滞在生活を送ることができました。



●現地の生徒と食事を楽しみ交流を深めました

### 日本とオランダの食事の違い

オランダでは、普段はナイフとフォークで食事を行い、お米を食べるときもフォークのみを使って食べていました。スプーンを使うのはスープのみなど、食習慣でも日本との違いをたくさん感じる事ができました。

こうした体験は高校生活の中でとても貴重な国際交流の機会であり、大変人気があります。生徒たちもオランダ研修へ行けることをとても楽しみにしています。帰国後は、オランダ研修発表会を行い、全校の生徒にこの研修で学んだことを広く伝える機会を設けています。

また、この研修は、田原地域のリーダーを養成することも目的としているので、今後も多くの生徒がこの研修を通して国際感覚を持った人間に成長するよう見守っていきたいと思います。